

ハザードマップポータルサイトについて

防災に役立つ地理空間情報の一つに、自然災害が発生した場合に予測される被害の範囲や程度等を地図上に示し、避難所等の防災に関する様々な情報を重ね合わせた“ハザードマップ”があります。我が国では、各種ハザードマップの整備が比較的数多く行われていますが、世界全体を見ると、その整備や提供、利用は必ずしも進んでいません。

ISCGM^(※)では、こうしたハザードマップの整備・利用の促進を図るため、世界各国の都市域におけるハザードマップの整備状況を把握し、それらを利用しやすくするためのハザードマップポータルサイトの構築を行うことを発表し、現在試作サイトを運用しています。今後、各国の関係機関と連携してこれを拡充し、ハザードマップ整備状況を把握するための指標となることを目指します。

現在試験運用中のポータルサイトイメージ

地図を移動／拡大し、都市を選択する

Country	Urban Agglomeration	Population 2012	Cyclone	Drought	Earthquake	Flood
Japan	Tokyo	37,217	Red	Green	Yellow	Red
Jordan	Amman	1,179	Green	Green	Green	Green
Kazakhstan	Almaty	1,426	Green	Green	Green	Green
Kenya	Mombasa	972	Green	Green	Green	Green
Kenya	Nairobi	3,363	Green	Green	Green	Green
	Al-Kuwait (Kuwait)					

世界の都市リストと各種災害に対するリスクレベルが表示される

ハザードマップを公開している機関のサイトへリンク

ハザードマップに関する情報

ISCGM ホームページ
<http://www.iscgm.org/>

試験運用中のポータルサイト
<http://www.iscgm.org/uhm/>

※ ISCGM について

ISCGM（地球地図国際運営委員会：International Steering Committee for Global Mapping）は、平成 8 年、我が国が提唱した地球地図プロジェクトを推進するための常設組織として設立された国際委員会。地球地図整備に向けた調整の促進、整備方策検討等を行っている。各国の地理空間情報当局（NGIA）や国際機関等によるメンバーで構成されている。設立から現在まで、国土地理院が事務局を担っている。

現在、地球地図プロジェクトには、世界 183 の国・地域が参加している。現在の ISCGM 委員長は、元国連統計部長の Paul Cheung 氏（シンガポール）（平成 25 年～）。